

## 平成29年度実施「いきいき協働事業」相互検証評価シート

事業名	災害時にも役立つ、自然エネルギーを活用したエコなライフスタイルの実践啓発事業
団体名	NPO法人こだいらソーラー
担当課名	環境政策課

## ①目的の共有（事業の目的をお互いに理解し、共有しながら事業を進めたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
・2年前の熊本地震の記憶が新しい中で、災害時に欠かせない電気等の確保を自然エネルギーを活用することの必要性の啓発とそのためのツールを提示をすることにより、市民に災害時にも役立つエコなライフスタイルへのシフトを実践・啓発する事業の目的は十分共有できた。	

## ②自主・自立の尊重（双方の団体としての独立を尊重し、過度に依存することなく事業を進めたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
・互いの得意分野・役割分担を理解・尊重し、自由かつ効果的に事業を進めることができた。	

## ③相互理解（互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方を理解し、柔軟な対応が図られたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
・4年連続の協働事業のため、互いの組織としての理解や使命、組織運営の考え方を十分理解し、災害と再エネの位置づけを含む横断的な取り組みにおけるスケジュール・市民向けの意義等を考慮の上、柔軟な対応ができたと考える。	

## ④対等関係（互いの事業活動における対等な立場を踏まえ、事業を進める様々な場面において、適切な協議、意見交換等の機会を設け一方的に決めることなく十分に話し合ったか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
・事業の実施に、予定外の応募への対応や防災・減災にどこまで踏み込むか等、十分な協議ができた。チラシの作成から市報への掲載等、互いの役割分担を踏まえた上で、その都度協議・連絡等を重ね、安定的な事業運営をすることができた。	

## ⑤情報の共有（相手方と十分な情報の共有ができたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
・1年間を通して、継続的なメールのやり取りを中心に、必要に応じて面談を行うことにより、内容の確認ができ、十分な情報共有が確保された。	

## ⑥役割分担と責任の明確化（事業実施にあたって役割分担が明確に定められていたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
----------------	-----------------

- ・4年連続の協働事業でもあり、相互の役割分担及び責任を理解した上で、事業を運営することができた。

#### ⑦協働事業の相乗効果（市が単独で実施するより効果的・効率的な事業展開ができたか）

団体自己評価：十分達成できた	担当課自己評価：十分達成できた
・「NPO 法人こだいらソーラー」の専門的な知識及び独自のネットワークを生かし、講師や展示物の選定、市民や関連団体への呼びかけを行うことで、市が単独で実施するよりも、多くの市民等への普及啓発が図られたことで効果的・効率的な事業展開ができた。	

#### ⑧目標の達成（事業の目的が達成できたか）

団体自己評価：達成できた	担当課自己評価：達成できた
・より多くの市民への啓発については、限界もあったが、「まちウォッキング」等の催しを通じて、自治会関係者や意識の高い人への災害時に役立つ省エネグッズの情報提供ができた。今後は、リーフレット等でより多くの方への情報提供・啓発に努める。	

#### ⑨地域の課題解決（事業を通じて地域の課題解決につながったか）

団体自己評価：達成できた	担当課自己評価：達成できた
・本事業を通じて、災害時にも役立つ、自然エネルギーを活用したエコなライフスタイルについての市民の理解は進んだと考える。それぞれの催しへの参加者の感想からも、勉強になったとの評価があり、自治会の防災関係者からも、催しで得た情報は活用できると積極的な意見があった。市民への啓発は、市報、チラシ、ポスター、催し、リーフレット等、多くの媒体を活用して行い、催しの際の情報や成果物は、今後の日常生活に活かすことが十分に考えられる。	

#### ⑩その他意見（提案団体から）

・今回は、環境部だけで完結できないテーマであったが、担当課の環境政策課には、精力的に防災関係部署との連絡や資料の収集をしていただき、防災知識の習得ができた。思いの外、我々の創エネ・省エネの知識が防災上重要であることが自覚できた。今後の我々の活動の上でも大変参考になると考えている。
--

#### ※自己評価項目

1	十分達成できた
2	達成できた
3	概ね達成できた
4	目標を下回った
5	達成できなかつた